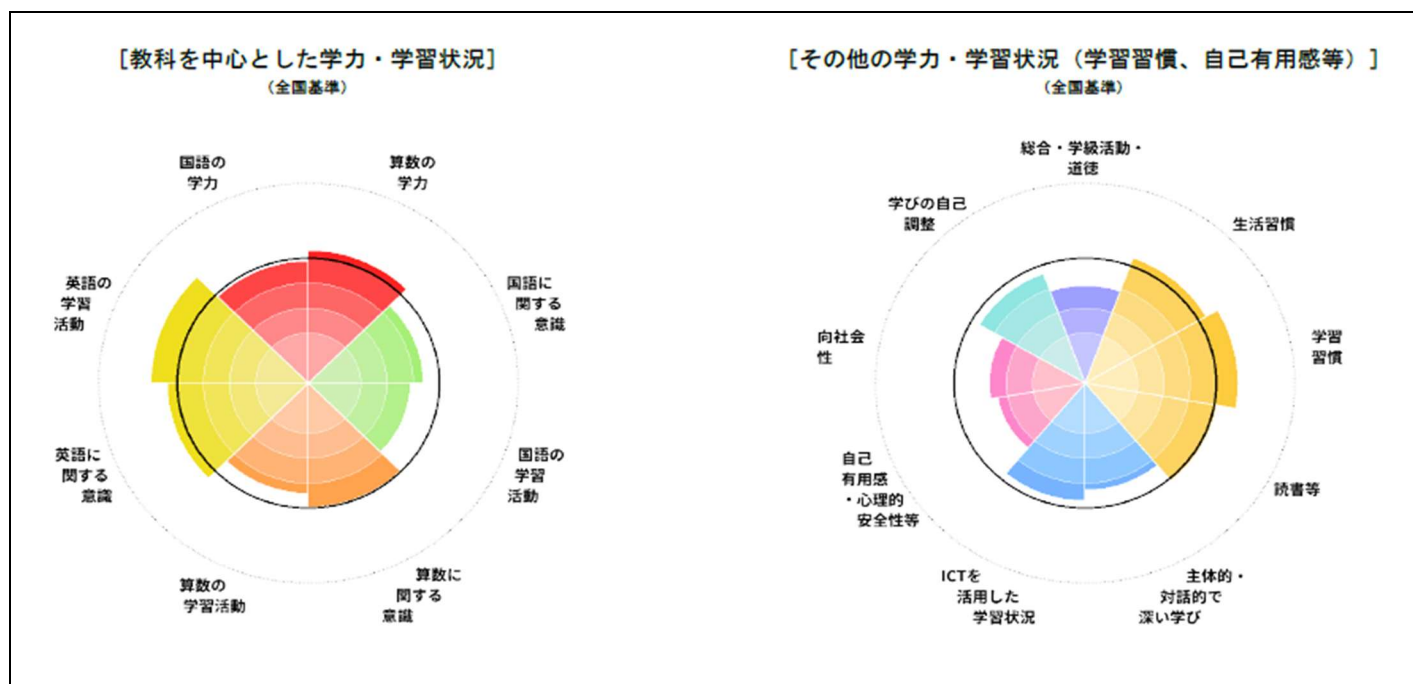


令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

令和 8 年 4 月に第 6 学年で実施しました「全国学力・学習状況調査」について、本校の集計結果がまとまりましたのでお知らせします。ご家庭におかれましては、今回のお知らせをお子さんの結果と併せてご覧になり、学力・学習の状況についてご理解をいただき、中学校への学習に生かしていただければ幸いです。学校におきましては、全国平均との比較を含んだ今回のまとめを生かし、これからの学習指導の改善に努めて参ります。

《全国平均との比較》



<本校の特徴>

令和 8 年度の 6 年生は、「学習意欲や生活習慣は比較的良好だが、自己有用感や対話的な学びに課題がある」という特徴が読み取れます。教科を中心とした学力・学習状況の強みとして、英語の学習活動・英語に関する意識・算数の学力が全国基準を上回っています。特に英語は、質問紙調査でも、「英語が好き」「学校外でも英語に触れる機会がある」という結果が出ており、学習意欲の高さが学習活動にも表れていると考えられます。

また、算数では「問題解決にあきらめず取り組む」「生活に活用できると思う」といった意識も比較的高く、粘り強く学ぶ姿勢が育っています。課題としては、「国語の学習活動」「国語に関する意識」は全国平均程度かやや低めです。質問紙調査でも「国語が得意」「国語が好き」と回答した割合が全国平均を下回っています。文章を読み取ることや、自分の考えを表現することへの自信を高めていく必要があります。

《学力調査結果》

【国語】

本校

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			13	59	61	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.3	65.2	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	45.9	53.3	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.0	66.9	65.8
		B 書くこと	2	40.2	46.3	45.7
		C 読むこと	2	62.3	66.2	65.9
評価の観点	知識・技能	6	58.2	61.2	62.0	
	思考・判断・表現	7	59.7	60.8	60.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	61.7	63.1	61.9	
	短答式	2	56.6	59.6	62.6	
	記述式	2	49.2	53.1	54.9	

情報を整理したり、表現の工夫を読み取ったりする問題で全国平均を上回る結果が見られ、資料や文章から必要な情報を読み取る力が育っていることが分かりました。一方で、文章を読んで自分の考えをまとめることや、目的に応じて情報を選択して活用すること、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られました。

今後は、読むことと書くことを関連付けながら学習を進め、文章や資料から得た情報をもとに自分の考えを形成し、根拠を明確にして表現する活動を充実させていきます。また、一人ひとりの考えを交流する場面を積極的に取り入れ、互いの意見を認め合いながら学びを深める授業づくりを進めます。さらに、児童が学習の成果や成長を実感できるようにすることで、国語学習への自信と意欲を高め、主体的に学ぶ力の育成を図っていきます。この観点から、次の点を国語科の重点改善事項としていきます。

国語科の重点改善事項	国語科の教材名
・文章や資料から必要な情報を選択し、整理する力の育成	「おすすめのパンフレットを作ろう」
・読み取った内容を根拠として自分の考えを書く力の向上	「考える とは」
・話し合い活動を通して考えを広げたり深めたりする学習の充実	「みんなで楽しく過ごすために」
・自分の成長やよさを実感できる評価活動の工夫	「今、私は、ぼくは」
・「読む・書く・話す」を関連付けた言語活動の充実	「鳥獣戯画を読む」

これらの取組を通して、子どもたちが国語を「わかる」「できる」だけでなく、「考えることが楽しい」「伝えることが楽しい」と感じられる授業づくりを進めていきます。

【算数】

本校

対象児童数		横浜市立南本郷小学校	神奈川県（公立）	全国（公立）
		61	66,676	922,778

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	58	58	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	63.3	62.6	61.1
	B 図形	4	60.7	57.0	55.3
	C 測定	1	80.3	79.7	78.1
	C 量と関係	3	45.9	44.2	41.1
	D データの活用	4	47.5	49.4	48.6
評価の観点	知識・技能	12	63.5	61.6	60.1
	思考・判断・表現	4	42.6	46.2	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	55.4	57.5	56.0
	短答式	8	65.2	61.2	59.7
	記述式	3	44.8	48.9	48.5

全体の平均正答率が58.0%と全国平均（56.4%）を上回り、基礎的・基本的な内容については概ね定着していることが分かりました。特に、「数と計算」の領域や体積・割合に関する問題、一部のデータ活用
の問題では全国平均を上回り、習得した知識や技能を活用する力が見られました。一方で、図形の性質を
根拠に説明する問題や、表や資料から必要な情報を整理して判断する問題、数量の関係を読み取って筋道
立てて説明する記述式の問題では、全国平均を下回るものが見られました。また、「異分母分数の大小を理
由とともに説明する問題」や「表の誤りを根拠を示して説明する問題」など、考えた過程を言葉や数を用
いて表現する問題に課題が見られました。

今後は、答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのような根拠で判断したのか」を説明する
活動を充実させていきます。また、図や表、数直線などを活用して考えを整理し、友達と考えを交流し
ながら学びを深める学習を積極的に取り入れます。さらに、日常生活と関連付けながら数学的な見方・考
え方を働かせる場面を増やし、主体的に問題解決に取り組む力を育成していきます。この観点から、次の
点を算数科の重点改善事項としていきます。

- ・数量の関係を図や表を用いて整理・説明する力の育成
- ・根拠を明確にして自分の考えを表現する記述力の向上
- ・図形や割合などの概念を理解し、活用する力の育成
- ・友達と考えを比較・検討する対話的な学習活動の充実
- ・日常生活と結び付けながら問題解決に取り組む学習の充実

これらの取組を通して、子どもたちが算数を「計算する教科」としてだけでなく、「筋道立てて考え、説
明し、活用する教科」として捉えられるよう、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきます。

《学習・生活意識状況調査》

質問番号	質問事項											
(8)	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	22.0	49.2	11.9	16.9							0.0	0.0
神奈川県（公立）	44.2	41.6	9.4	4.5							0.0	0.2
全国（公立）	43.6	42.0	9.8	4.3							0.0	0.3

質問番号	質問事項											
(2 2)	分らないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	28.8	50.8	15.3	1.7							0.0	3.4
神奈川県（公立）	27.9	51.5	17.2	2.7							0.0	0.8
全国（公立）	28.7	50.7	17.1	2.7							0.0	0.8

質問番号	質問事項											
(3 3)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	28.8	42.4	25.4	3.4							0.0	0.0
神奈川県（公立）	32.4	48.6	15.1	3.8							0.0	0.1
全国（公立）	31.9	48.2	15.9	3.9							0.0	0.1

質問番号	質問事項											
(1)	朝食を毎日食べていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	86.4	8.5	5.1	0.0							0.0	0.0
神奈川県（公立）	83.5	9.9	4.9	1.5							0.0	0.2
全国（公立）	83.1	10.2	4.9	1.6							0.0	0.2

質問番号	質問事項											
(2 3)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	20.3	13.6	27.1	22.0	11.9	3.4					0.0	1.7
神奈川県（公立）	16.7	12.6	23.5	24.4	16.1	6.0					0.0	0.6
全国（公立）	10.5	11.1	28.3	29.1	14.5	5.7					0.0	0.7

質問番号	質問事項											
(2 6)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	13.6	5.1	10.2	8.5	15.3	32.2					0.0	15.3
神奈川県（公立）	5.7	7.7	14.7	19.0	14.5	28.0					0.0	10.5
全国（公立）	5.0	6.9	14.2	20.0	15.1	26.3					0.0	12.4

※解答類型

1 あてはまる 2 どちらかといえばあてはまる 3 どちらかといえばあてはまらない 4 あてはまらない

本校の児童は、生活習慣や学習習慣が全国平均を上回っており、学力を支える基盤が概ね確立されています。朝食の摂取や規則正しい生活に加え、家庭学習や読書への取組も比較的良好であり、学習に向かう姿勢が育っていることがうかがえます。

一方で、「自分にはよいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「異なる意見を言っても否定されないと思う」といった自己有用感や心理的安全性に関する項目は全国平均を下回る傾向が見られました。また、話し合い活動を通して考えを深めたり、自分の学習を振り返って次の学習につなげたりすることについても課題が見られます。学習意欲や学習習慣は育っているものの、自分に自信をもち、安心して考えや意見を表現する力については、さらなる向上が必要であることが分かりました。

今後は、一人ひとりのよさや努力、成長を積極的に認めることで自己有用感を高めるとともに、互いの考えを尊重しながら安心して意見を交流できる学級づくりを進めていきます。また、学習の見通しをもたせる活動や振り返りの充実を通して、自ら学びを調整し主体的に学習へ取り組む力を育成していきます。さらに、ICT 機器を活用した協働的な学習や対話的な活動を積極的に取り入れ、児童が他者との関わりの中で学びを深められるよう指導の改善を図っていきます。この観点からは、今後の教育活動全体を通して、重点改善事項を次のように考えています。

- ・ 自己有用感や自己肯定感を高める指導の充実
- ・ 安心して考えや意見を表現できる学級風土の形成
- ・ 振り返り活動を充実させ、学びを自己調整する力の育成
- ・ 対話を通して考えを深める学習活動の充実
- ・ ICT を活用した情報活用能力と表現力の向上
- ・ 読書活動や家庭学習習慣の継続的な充実

これらの取組を通して、児童一人ひとりが自分のよさを実感しながら、主体的に学び、互いに認め合い支え合える学校生活を実現していきたいと考えています。